

カ月余続いて死亡した例である。Zuttの存在論的解釈によれば、孤立化が本症の核心におかれているが、本例にはその傾向がない。生物学的内因をも考えてはいるが、症状の理解に更にこの見地を活用するならば、Zuttの記載する精神的諸症状も、発展的に、または発病と同時に精神的加工を考慮して把握し得るのではないかと言う観点を提出しておく。尙本例は、剖検所見によつて Simmonds 氏病ではないことが明らかにされている。

21. ウイルソン氏病の1例

(小兒) 篠塚輝治・森本妙子・〇水沼陽子

(眼科) 斎藤耀子

患者は10才8カ月の女子。

従兄結婚による第4子にて、第3子は7才の時黄疸で死亡した他家族歴に著変はない。患児は7才の頃、急性糸球体腎炎に罹患し6ヵ月で全治、その後9才及び本年3月再び蛋白尿、血圧上昇あり腎炎の治療を受けたことがある。

本疾患と思われる症状、すなわち、流涎、言語不明瞭、運動緩慢、無欲状顔貌は約1年4ヵ月程前より認められ、次第に増悪して来た。

5月28日上記症状を主訴として当科来訪、精密検査のため入院す。検査としては腎機能、脳脊髄液、脳波、眼底検査、血清および髄液ワッセルマン氏反応、知能検査を施行したが異常なく、血清高田氏反応陽性、尿中銅の増加、角膜炎に Kayser-Fleischer Ring を認めこれによりウィルソン氏病と診断した。治療としてBAL, Methionin を使用したが著効なく、1時軽快退院するも尙、今後の経過観察を必要とするものである。

22. 女子尿閉について

(皮泌科) 梅津隆子・〇吉田美喜子

女子における尿閉は男子に較べて極めて少なく、その大半は手術後とくに広汎性子宮全摘出術後にみられる。

最近経験した急性完全尿閉の3例を報告し、併せて女子尿閉の原因について文献的考察を加えた。

第1例 39才 家婦 数ヵ月来時折(便秘、長時間坐居、月経、尿意抑制後)尿閉をきたし、右下腹部の腫瘍に気付く。膀胱鏡的に膀胱頸部、三角部は左下方より圧迫されて膀胱腔内に半球状に膨隆、被覆粘膜に異常はない。手術によつて超新生児頭大の左卵巣囊腫が茎捻転をおこしダグラス窩に侵入、膀胱、尿道を圧迫して尿閉を惹起したものであることを確認。膣上部切断術によつて治癒す。

第2例 60才 家婦 年余にわたつて尿閉、膀胱炎をくりかえす。尿道左壁に発生した2コの乳頭腫様ポリープの弁作用によつて尿道内腔を閉塞して尿閉をき

たしたもので、電気凝固法により摘出。以来排尿障害はない。

第3例 18才 学生 扁桃摘後2日にわたつて尿閉をきたし1800 cc を導尿。前後5回完全尿閉をおこし1200~1800 cc を導尿。

尿、尿路、その他全身的に全く異常はなく、神経科で鬱病と診断され、経過中四肢の強直性痙攣(ヒステリー性)を伴う。よつて精神因性尿閉と診断し、暗示療法にて治癒す。

23. 代謝機能より観察した歯槽膿漏症の

病因的關係について

(口外) 大橋良昭

歯槽膿漏症の発生機序については、今日の所全く不明である。而し、本症の成因としては、全身疾患(とくに新陳代謝障害、植物神経系統疾患など)の内因説と、歯石その他の刺激より歯頸部附近の歯牙周囲組織におこつた局所性の慢性化膿性炎であるという外因説がある。私は本症の本態に関する研究の一環として、内因的に考究すべく唾液を中心にその代謝機構の一端を観察した。

1. 唾液水素イオン濃度測定法の検討
2. 歯槽膿漏症罹患者の唾液pH, 唾液中 CO_2 含有量, 血液中 CO_2 含有量について
3. 歯槽膿漏症罹患者の唾液pH, 唾液中Na, K, Ca濃度について
4. 歯槽膿漏症罹患者の血糖量, 唾液, 胆汁, 局所血液, 静脈血のpHについて
5. 歯槽膿漏症罹患者の唾液pH, 唾液粘稠度, およびムチン含有量について

以上の各項目の概略を説明し、本症罹患者の一つの傾向を知り得たことを報告した。

24. 「オキシグラフ」による組織および

臓器内酸素濃度測定に関する研究

I 各種条件下の組織酸素消費に関する研究

(第一生理) 〇養島 高・石田昭也・大場千秋

組織および臓器内の酸素濃度消長の測定は主として Warburg の検圧法によるのが通例であるがこの方法では生体内においての酸素濃度の測定はできない。

電氣的に溶液内の酸素濃度の測定は Nernst に初まり、その後多数の学者によつて研究され、今日は生物学的方面の酸素代謝研究に応用されつつある。この方法によると試験管内は勿論、生体内臓器の酸素代謝または酸素濃度の測定が可能である。養島および望月は陰極として用いる白金電極に酸素が拡散して行く時の限界拡散電流値を光学的に記録する装置、すなわち oxigraph を考案し製作した。

本講演ではまず、これによる測定法の原理と装置について述べ、次にこれを用いて、人胎盤、人胃粘膜、